



十一月便り

ハロウィンのお話。ケルト人の一年の終わりは十月三十一日、この夜は秋の終わりを意味し、十一月一日冬の始まり、死者の霊が家族を訪ねてくると信じられ、時期を同じくして出てくる有害な精霊や魔女から身を守るために仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いていた。これに因み、三十一日の夜、かぼちゃをくりぬいた中に蝋燭を立ててジャックオーランタンを作り、魔女やお化けに仮装した子供たちが近くの家を訪ねては「トリックかトリートか？お菓子をくれないと悪戯するよ」と唱える。家庭では、カボチャの菓子を作り、子供たちはもらったお菓子を持ち寄り、ハロウィン・パーティを開いたりする。お菓子がもらえなかった場合は報復の悪戯をしてもよいとされ、ハロウィンの飾りつけをしていると訪問してもよいという意思表示になっている。いずれにして

もハロウィンは元々キリスト教の祭ではなかった。文化圏によつてかなり扱いがあるが、現代でハロウィンが大々的に行われているのは主に英語圏であり、イギリスが進出して文化を広めた場所、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアなどに広まっている。特に、ケルト人の国であるアイルランドに色濃く残っている。日本では米軍関係者が住む地域において風習として持ち込まれ、各地のイベントでハロウィンにちなんだ仮装が導入されるようになってきたのは1980年代以降になってからである。1980年代半ばから、ハロウィンの商業利用が盛んになり、夏休みとクリスマスとの間の販促イベントの材料としてふさわしかったのだろうと思われます。その後、東京ディズニーランドを始めとするイベントが各地で開催されたことに加え、2000年 後半より菓子メーカーが相次いで ハロウィン商戦に参入、店頭・街中でのハロウィン装飾が見られるようになったほか、仮装、コスプレの

イベントとして日本式にアレンジされたハロウィンが行われている。近年では幼稚園や保育園の恒例行事になってきているほか、大人も仮装をして参加するイベントが大都市圏を中心に各地で行われています。日本ってどうしてよその国の文化をうまく取り入れるというか、商売に結び付けて利益追求に走る、欲深い努力を惜しまない日本人が多いですね。クリスマス、バレンタイン、サンジョルデイ、そして、ハロウィン。もうすぐボジヨレー・ヌーボーもあるかな？

皆さんはこのことをどう思われますか？ 欲深い努力、私は大好きです。(笑)

令和3年11月おもしろ記念日

11月の誕生石は [トパーズ]

1 (月)	灯台記念日	
2 (火)	習字の日	
3 (水)	文具の日 文化の日	
4 (木)	ユネスコ憲章記念日	
5 (金)	いいりんごの日	
6 (土)	アパート記念日	
7 (日)	鍋の日	
8 (月)	いい歯の日	
9 (火)	119番の日	
10 (水)	エレベーターの日	
11 (木)	おりがみの日	
12 (金)	洋服記念日	
13 (土)	うるしの日	
14 (日)	パチンコの日	
15 (月)	七五三	
16 (火)	幼稚園記念日	
17 (水)	将棋の日	
18 (木)	土木の日	
19 (金)	緑のおばさんの日	
20 (土)	世界こどもの日	
21 (日)	早慶戦の日	

22 (月)	いい夫婦の日	
23 (火)	外食の日 勤労感謝の日	
24 (水)	オペラの日	
25 (木)	OLの日	
26 (金)	ペンの日	
27 (土)	ノーベル賞制定の日	
28 (日)	太平洋記念日	
29 (月)	いい肉の日	
30 (火)	シルバーラブの日	

